

該当番号	意見の要旨	当日の区長回答（一部抜粋）	議事録該当箇所
グループワーク 未来の「子どもの居場所」を考える			
1	<p>子どもの漫画カフェや駄菓子屋など、不登校の子どもでも、誰でも参加しやすいサードプレイスづくりが出来たら良い。様々なサードプレイスの中から、子どもが選んでいける墨田区になるとよい。</p>	<p>単なる物理的な場所としてではなく、いろいろな体験を積み、仲間を作って、ある時はおじさんから怒られたり、おばさんに優しくしてもらったり、あたたかさに触れて、将来自分もこんな大人になりたいという体験をしていくことが、子どもたちの成長にとって大切なことだと思う。</p> <p>【所管課補足】 区では、社会福祉協議会に委託し、世代や、属性を問わない居場所と相談の場として地域福祉プラットフォームを3か所開設している。子どもからお年寄りの方までどなたでも参加、利用いただける。</p>	2ページ グループB
2	<p>フリースペース、メタバース、複合施設について特に深く話した。子どもが遊んでいく中で、いろいろな場所に行けない・行かなくても、一つの場所に行けば、本を読んだり遊んだり、様々なことができる複合施設があると良い。</p> <p>プレーパークが多くの場所にできているが、昔だったら大人に怒られそうな遊びでも、大人の方のサポート等により、できるようになっている場所もあるので、五感を使った体験学習ができる場所が増えていくと良い。</p>	<p>SNSはそれ自体が居場所であり、そこを求めらるお子さんたちもいるのではないのか。私は区政を運営する側なので、複合施設や子ども食堂などのリアルの場について考えてきたが、SNSの活用のお話を聞いてよかった。</p> <p>ただ、その中でもリアルな良さをしっかり突き詰めて、五感を使った体験学習という意見もあった。複合施設で、例えば体も動かしたり、勉強したり、本を読んだり、ゲームもできる場や、自由度がしっかりあった形の中で、プレーパークやフリースペース等を新たに作っていくという意見を伺えてよかった。中にはコロナ禍でお子さんが生まれて、この2年間のコロナ禍での苦労がありながら、児童館や子育てひろばなどの施設で、リアルな交流があったり、相談したり、意見交換をして少し助けられたという話もあり、行政として、こういった場所の機能拡張であったり、良さを際立たせていかなければならない。</p> <p>【所管課補足】 子どもたちが自然にふれながら、いきいきと冒険を楽しむことができる遊び場「わんぱく天国」が押上にある。「わんぱく砦」、「わんぱく広場」、「やすらぎ広場」の3ゾーンに分かれており、大型木製遊具、ターザンロープ、木工室などがある。またプレーリーダーが常駐しており、子どもの見守り、遊びの手伝いを行っている。</p>	3ページ グループA
3	<p>現状の居場所は、たくさんあるが認知されていない。いじめや不登校などの本当に困っている方には、居場所があっても情報格差があり役に立っていないのではないか。お年寄りの方と子ども、大学生と子どもなど、縦のつながりを大事にすることで墨田区すべてが居場所になると良い。</p> <p>具体策として、墨田区には下町の工場などがあるので、職業体験のような機会があれば、伝統文化の継承に困っている方ともつながりができる。また、何でもしているカフェや、寺子屋みたいな場所があると良い。</p>	<p>今日の参加者にも、区の中で頑張っている活動されている方がいらっしやるが、認知されていないという課題がある。私も、子ども食堂という、食を通して子どもたちと触れ合いながら、地域で子どもを育てるといった活動が14箇所に増えたということを知りしたが、まさに、情報格差があり、必要とされる方に必要な情報が届いていない、マッチングしていないことについては、参考になる意見だった。</p> <p>また、子ども食堂や児童館などが連携、協力していくことの大切さについて。職業体験も授業としてはあるが、せっかく工場がたくさんあるなら、子どもの居場所として捉えるということも大変参考になると思った。大人と子どもの縦のつながりや、保護者同士、子ども同士の横のつながり、そこから生まれる出会いや体験の拠点となるものがあつたら良いなと思った。</p> <p>【所管課補足】 区では、区報・区のホームページ・SNS等で、地域食堂・こども食堂に関する情報を発信している。また、民生・児童委員の皆様等に課が把握している地域食堂・こども食堂の情報を提供し、区民への周知依頼をしている。今後も、広く周知できる情報発信のあり方を検討しつつ、最新の情報を定期的に発信していく。</p>	3ページ グループC
4	<p>(No.3と重複)</p> <p>現状の居場所は、たくさんあるが認知されていない。いじめや不登校などの本当に困っている方には、居場所があっても情報格差があり役に立っていないのではないか。お年寄りの方と子ども、大学生と子どもなど、縦のつながりを大事にすることで墨田区すべてが居場所になると良い。</p> <p>具体策として、墨田区には下町の工場などがあるので、職業体験のような機会があれば、伝統文化の継承に困っている方ともつながりができる。また、何でもしているカフェや、寺子屋みたいな場所があると良い。</p>	<p>職業体験も授業としてはあるが、せっかく工場がたくさんあるなら、子どもの居場所として捉えるということも大変参考になると思った。大人と子どもの縦のつながりや、保護者同士、子ども同士の横のつながり、そこから生まれる出会いや体験の拠点となるものがあつたら良いなと思った。</p> <p>【所管課補足】 令和5年はイベントが休止となったが、令和6年は、新たな体制でイベントを再開する予定である。例年は秋、11月頃開催しているため、イベントが再開したら、ぜひ、工場見学等に参加してほしい。</p>	3ページ グループC

5	<p>子ども食堂等を始めたくても、どのように運営していくか、資金や人や場所などがネックになって開催できない。フードロス問題もあるが、横の連携により上手に活用したり、企業等ともつながれたら、運営や資金面の解決にもつながっていくのではない。</p>	<p>子ども食堂や子どもの居場所を拠点としてやっている方がいらっしゃる。その運営に関して、区としてどのように支援していくかは究極のテーマであると思う。子ども食堂も14か所に増え、その中で横の繋がりもあつたり、やり方に違いもあつたりすると思うが、私たちが実態を把握して、何ができるのか対応していく必要があると思った。</p> <p>【所管課補足】</p> <p>地域食堂・こども食堂の運営支援に関して、区では墨田区食支援団体利用環境整備等運営補助金の交付を実施している。これは食品ロス削減対策として、生活に困窮する世帯及びひとり親世帯等に対して食の提供とともに適切な支援機関へつなぐ取組を実施している区内の地域食堂・こども食堂に、利用環境整備に係る経費の一部を補助することにより、区民が食支援団体を利用しやすくすることを目的としている。地域食堂・こども食堂の開設支援に関しては、活動中の地域食堂・こども食堂や開設を支援する団体の情報を提供することで、開設の促進を図っている。</p>	4ページ グループD
6	<p>(No.5 グループD発表の続き)</p> <p>キッズニアのような職業体験が気軽にできる場所があると良い。緑小学校では放課後事業を近い形で実施しており、地域の方たちの力を借りながら、昔の遊びをやってみたい、講師の方を呼んでスポーツスタッキングをやってみたいしている。その中でもやはり人手不足や資金面など、どこまで地域の人にお願ひできるかが課題となっているが、区内の学校全てで実施できれば子どもたちがいろいろなところに遊びに行ける。</p>	<p>緑小学校で行っているみどりっこクラブは、非常に先進的な取組で歴史もある。学校施設を活用しながら地域の方々が参画して、勉強を教えたり、体を動かしたり、素晴らしい取組である。どこの学校でもできるわけではないが、参考にしながら、学校単位で良い所を取り入れていけると良い。</p> <p>【所管課補足】</p> <p>区では、地域の方々の協力のもと、放課後の子どもたちの安全・安心な居場所を確保し、学習や様々な体験・交流活動を行うことを目的として放課後子ども教室事業を行っており、緑小学校の「みどりっこクラブ」を含め、区内21校の小学校に開設している。引き続き、未実施校における新規開設を目指すとともに、既に開設されている放課後子ども教室においても、内容の充実を図れるよう取り組んでいく。</p>	4ページ グループD
7	<p>(No.5,6 グループD発表の続き)</p> <p>情報格差について、様々な場があつても認知されておらず、自らインターネット等で調べないとわからない情報が多く、埋もれてしまっている。PTAの行事でも、参加者は決まった子どもたちが多く、声の届かない子どもたちにどう届けたいかが悩みである。ネットワークがあつても、仕事や子育てで忙しく、情報を探りに行く時間が取れずに孤立していくママたちもいる。何かぱっと目に見えるような形で、興味があるようなことが自分の地域で開催できるとよい。</p>	<p>情報格差や、マッチングができていないというのも、おっしゃる通りである。平日の月曜日～金曜日までの居場所、また土日も含めた体験的な居場所、更には夏休みなどの期間の居場所についても考えていかなければならない。</p>	4ページ グループD
8	<p>(No.5,6,7 グループD発表の続き)</p> <p>孤立しているお年寄りも多いため、お年寄り子どもがマッチングできるようなシステムを区が作り活用できると良い。</p>	<p>最後に、高齢者との交流については、墨田区でも子ども食堂などで、高齢者の皆さんと一緒にご飯を食べながら交流を深める取組をいただけているところもあるが、多くの子どもたちが体験・経験をすることが大切だと思う。高齢者の方のお話を子どもたちが聞くということは、今年関東大震災100年の年でもあるが、そういった話を継承していくという意味でも非常に大事な取組だと思う。</p> <p>【所管課補足】</p> <p>区内中学生や区内IUの学生が、老人クラブに加入している高齢者にスマートフォンを教える取組を進めており、高齢者のデジタルデバイス解消だけでなく、世代間交流についても継続していく予定である。また、区では、社会福祉協議会に委託し、世代や、属性を問わない居場所と相談の場として地域福祉プラットフォームを3か所開設している。子どもからお年寄りの方までどなたでも参加、利用いただける。</p>	4ページ グループD

9	<p>ゲームセンターなどの人工的な場所が子どもの居場所になってしまっていることが多いので、もっと野生を取り戻してほしい。火を使える場所があると良い。</p> <p>野生を取り戻すにはその場所を区外に求める方法もあるため、そういった場所に行く支援金等を出したらどうか。ただ親としては、休日に時間を作って申請して連れていかななくても、身近にあることがより嬉しい。</p> <p>そこで、ゲームのリアル化を提言する。例えば子どもに人気のゲーム、自由に家を作ったり冒険できたり畑を掘ったりできる“マインクラフト”、水鉄砲でインクを飛ばし合う“スプラトゥーン”等を実際にやれるようにしたら良いのではないかと。水鉄砲や化石掘りを疑似体験してみたり、公園など、五感をフルに使える場を提供することで、自然と子どもも興味を持って体を動かせることができるのではないかと。こういった体験を通して子どもの心も成長できることが、保護者にとっても安心できる嬉しいことなのではないかと。</p>	<p>“野生を取り戻す”という言葉が刺さった。私は役所の立場で安心・安全を優先してしまうが、“野生を取り戻す”というのは非常に面白い表現であり、本質的なところだなと思った。火を使える場所はその通りで、火をおこす等の体験を今の子どもたちにどう感じてもらえるかという興味もある。</p> <p>墨田区は公園でも花火ができ、火の怖さも学べる。火が熱いということを経験することが大事である。水鉄砲の話も面白く、心配な部分もあるが、その殻を少し破って野生を取り戻すために、区政の中でどんなことができるかヒントをもらえたような発表であった。</p> <p>【所管課補足】</p> <p>子どもたちが自然にふれながら、いきいきと冒険を楽しむことができる遊び場「わんぱく天国」が押上にある。「わんぱく砦」、「わんぱく広場」、「やすらぎ広場」の3ゾーンに分かれており、大型木製遊具、ターザンロープ、木工室などがある。またプレーリーダーが常駐しており、子どもの見守り、遊びの手伝いをしている。</p>	<p>ページ4,5 グループE</p>
10	<p>(実施後アンケートから)</p> <p>墨田区には子どもの活動をしている団体は多いので、交流する機会をつくってほしい。</p>		
11	<p>(実施後アンケートから)</p> <p>こども食堂開催に関わる課が多いので、区政(課)が横につながるようになるといい。</p>		